

ミツカン×法政大学

みず・ひと・まちの未来モデル

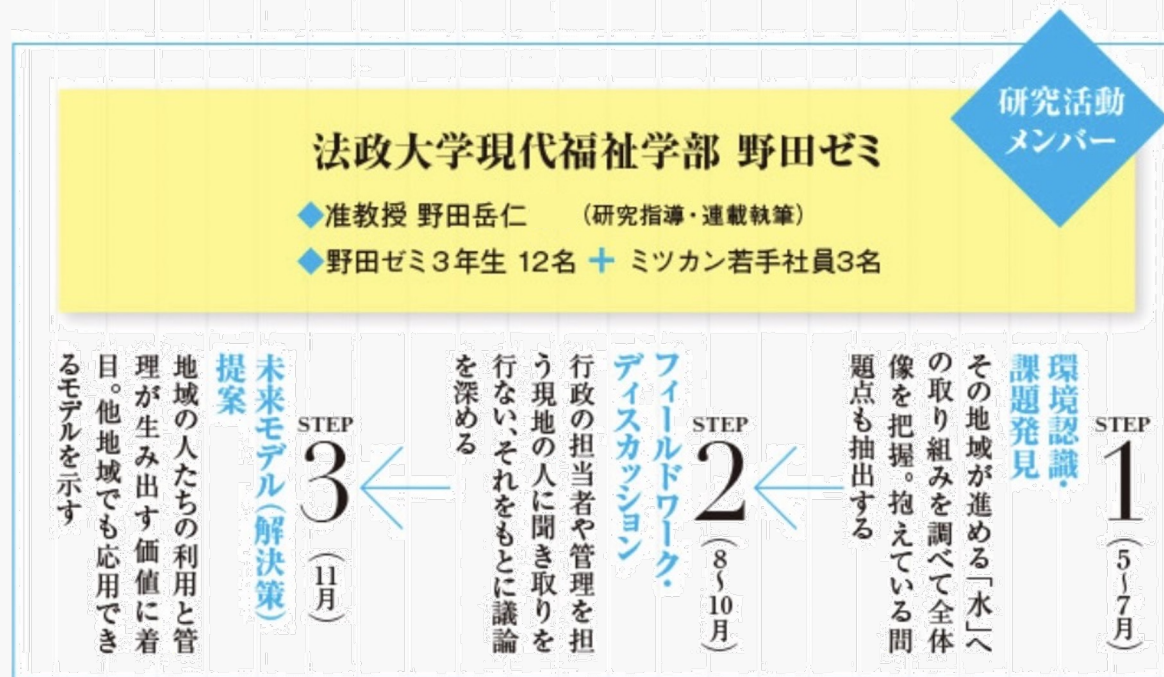
研究成果発表会

法政大学

野田岳仁ゼミ

研究プロジェクトについて

ミツカンと法政大学野田ゼミ（環境社会学）による「**みず・ひと・まちの未来モデル**」は地域が抱える“水とコミュニティ”の課題を、将来を担う若者がワークショップやフィールドワークを通じて、地域に提案するプロジェクト



本研究の問い

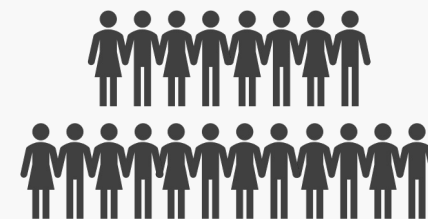
なぜ人びとは小規模集落水道を
維持し続けるのか？

小規模集落水道とは

近代的な上水道システム(簡易水道含む)の
整備がされていない地域で

集落独自に小規模な戸数(給水人口100人以下)に
給水する小規模水道

該当する
人口規模は
200万人
程度



なぜいま「小規模集落水道」なのか？

小規模集落水道をとりまく

国の体制整備が

急ピッチで進んでいるから

高齢化や人口減少による近い将来の担い手不足が懸念される

小規模集落水道の代替案として

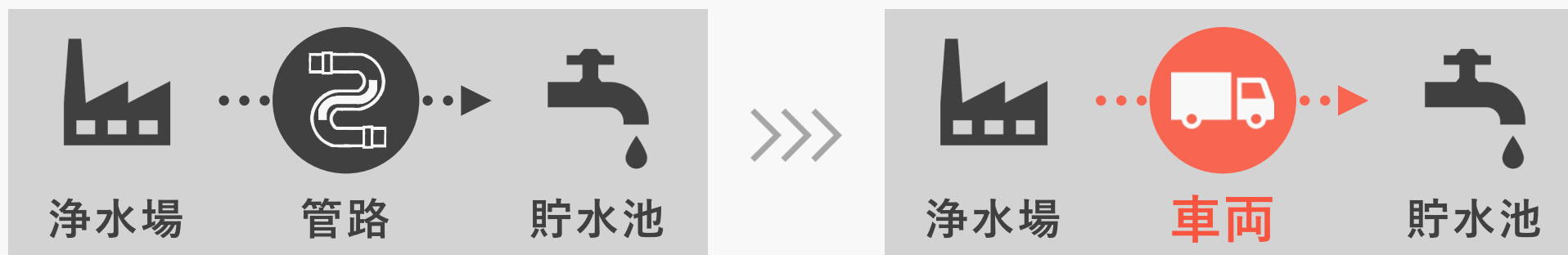
上水道システムの
導入

給水車による
送水

検討されている

過疎地域への新たな配水手法 運搬送水

浄水場と貯水池(給水タンク)の間を管路で結ばず、車両で送水



大規模なコストのかかる管路敷設工事が不要のため
人口の少ない集落への送水に適していると考えられている

集落単位の水道組合を維持する現場の人びとは…

このような提案には消極的で

集落単位の水道組合を

維持し続けなければならない

と考えている

新潟県村上市大毎集落をとりあげる

上水道システム（簡易水道）が
導入されているにもかかわらず

大毎集落では集落独自の
水道組合を維持し続けている

100年近く小規模集落水道を維持している

小規模集落水道のトップランナー

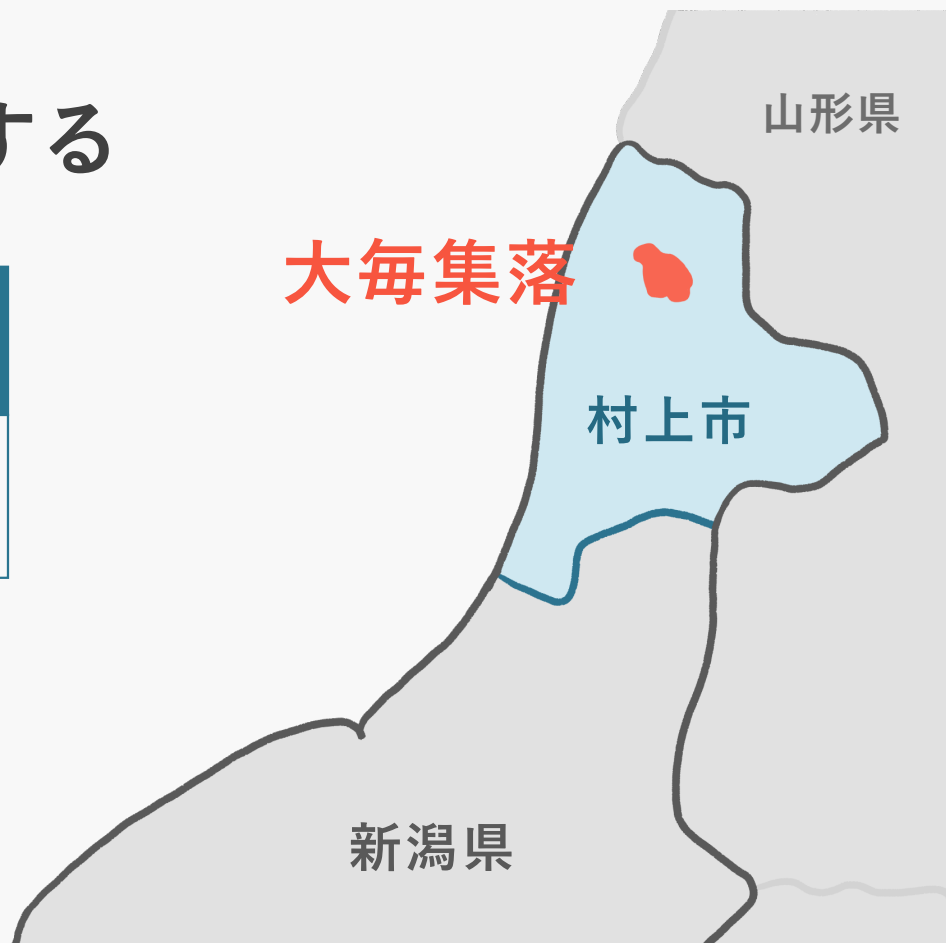
上水道システム（簡易水道）が
導入されているにもかかわらず
なぜ人びとは集落独自の
水道組合を維持し続けているのか？

大毎集落の概要

新潟県村上市の北部に位置する



ほどの農業集落



大毎の生活のしくみを見てみると…

**とても多様な社会集団が
存在している！**

もっとも身近な単位は…

10戸程度のまとまりである

となり組

となり組とは

人びとにとって最も身近な暮らしの組織

現在の自治会のなかの「班」や「組」のようなもの
「村組」あるいは「近隣組」と呼ばれていた

日常生活の
活動単位

道普請など
共同の労働の単位



(日本村落研究学会編(2007)『むらの社会を研究する』農山漁村文化協会)

大毎集落のとなり組

かつては…

冠婚葬祭の
手伝い

忘年会

月に1度
組長の家（ヤド）に集まり
むらの運営や
日常の悩み事を相談

現在では…

協議委員 という新たな役職も

各組から
原則男性を
一人ずつ
選出

任期2年

むらの
執行部と
組員の
橋渡し役

組長は…

月に3度ほど配布物を組員に配布する役割を担う

年齢集団は今でも…

子供組

中老組にあたる
456会

年寄組
(老人会)

かつては 若者組(青年団) もあった
旧山北町全域の青年団に統合

年齢集団とは

村落の成員が年齢によって区分され
その区分ごとに特定の機能を持ち
集団化したもの



(鳥越皓之(1985)『家と村の社会学』世界思想社)

さらに女性の集まりとして…

婦人会は解散しているが

女性の親睦のグループ

そのなかでも…

嫁入りした人たちだけの
グループ

知り合いの
少なかった
時代には
とても
助けられた



これらに加えて…

大毎集落には
7つの小規模集落水道
が存在している

大毎
水道組合

中町
水道組合

町村水道

瀬戸水道

薬師水道

ガンネンジ
水道

オジマチ水道

戸数最大の大毎水道組合は**9つの組**に分けられている

大毎集落の水道の概要

大毎水道組合	町村水道	オジマチ水道	中町水道組合
開設時期	開設時期	開設時期	開設時期
大正13年	昭和初期	昭和30年頃	—
加入戸数	加入戸数	加入戸数	加入戸数
8戸	15戸	8戸	9戸
薬師水道	瀬戸水道	ガンネンジ水道	
開設時期	開設時期	開設時期	
—	—	—	
加入戸数	加入戸数	加入戸数	
8戸	8戸	2戸	

水源はいずれも湧き水

水神の
掛け軸

水神の
祠

水神を祀っていることは共通

水神講

大毎水道組合

女性だけ

中町水道組合

男女混合

掛け軸を飾って共同飲食して
歌ったり踊ったり…

楽しみだった！

水神講で飾っていた掛け軸

中町
水道組合

大毎水道組合(9組)



太治右工門



九郎治



丸良



染屋



八右工門



七左工門



五平治



下伝造



丸勝屋

管理の面では…

各水道の組合費（年間）

大毎 水道組合	中町 水道組合	町村第一 水道組合	瀬戸水道	薬師水道	ガンネンジ 水道	オジマチ 水道
2,400円	なし	1,000円	なし	なし	なし	なし

組合費は配管の管理や修繕に充てている

組合費を徴収しない水道も
タンクや配管に不具合が生じた場合にはその都度、費用を徴収

水の利用自体は無料

東京に住む私たちが普段利用する上水道システムでは…



貨幣と交換するもの

大毎の水道は…

貨幣交換できない

「みんなのもの(共有資源)」

では…

なぜ人びとは集落独自の水道組合を
維持し続けているのでしょうか？

この理由を考えるために、あえて水道組合から離れて

“となり組の再編”を

めぐる集落の考え方をみていきたい

なぜなら、この再編に込められた集落の考え方が
水道組合の維持の論理につながっていると考えるから

となり組の再編

2010年（平成22年）

17組



12組

に再編

その理由は…

居住者の減少によって空き家が増え
10戸を下回る組がでてきたから

では…

となり組はなぜ10戸を
下回ってはいけないのか？

この理由を考えるために組長の任期を見ていくと…

1年を任期とする地域が多いが

大毎集落のとなり組の組長の任期は

1ヶ月

である

そうなる…

10戸を下回ってしまうと
年に2回組長を務める家が複数でてくる

それは望ましいことではなく
組の再編を求める声が高まった

ここで気になったのは…

10戸という 小さなまとまりの数

大毎水道組合では、かつて
20戸に増えた組を2つにわけて
ひと組あたり10戸にしていた

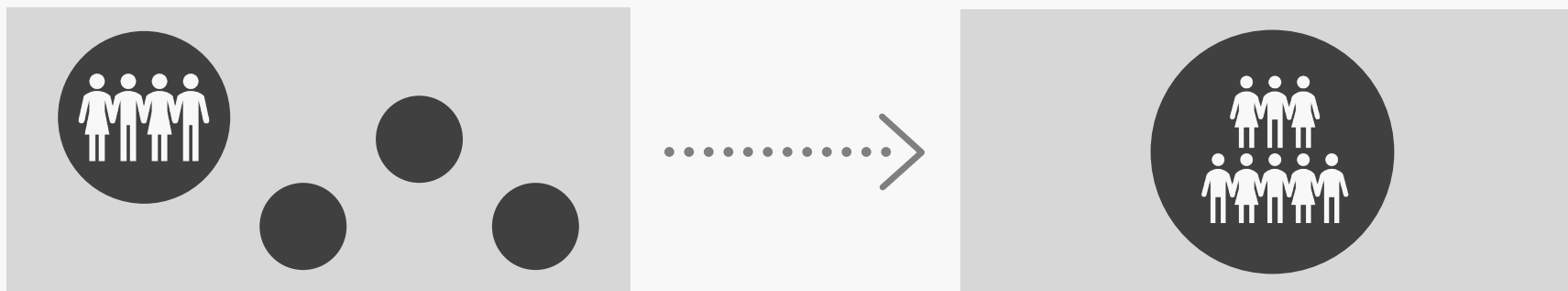
そのためにわざわざ住民が水神の掛け軸を新たに描いている

このような疑問を抱くのは…

現在の地域政策の方向性とは真逆の対応をみせているから

現在の地域政策

人口減少や高齢化による担い手不足を考慮して
地域組織を合理化・広域化させる傾向にある



小さいまとまりをより大きなまとまりに集約しようとしている

にもかかわらず、大毎集落は…

社会集団を
小さくまとめることに
こだわっている

もうひとつの疑問は…

となり組の組長はなぜ1ヶ月で
交代させるのか？

むらのしくみを調べていくと…

**集落運営の基本原則と
呼べるような性格と
関係があることを発見した！**

象徴的なのは…

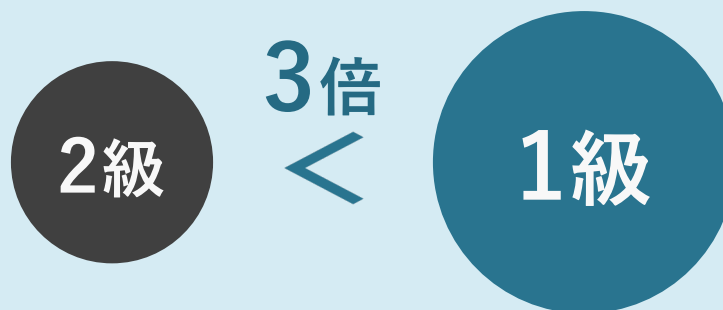
細かく階級をわけて徴収していた自治会費

かつては

40階級も！

現在は **2階級**

(じっさいには免除の人を含めて3階級)



各戸の世帯構成や経済状況などの事情にあわせて設定

「平等性」よりも「公平性」を重視した制度

見立割

平等性と公平性の違いとは



各戸に一定額を求める



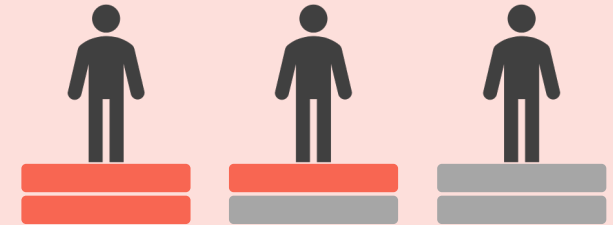
各戸の負担の差は埋まらない

平等

公平



各戸の実情を汲み入れた
負担を課す



各戸の負担の差が埋まった！

各家の権利と義務（負担）が
公平になるように
工夫されている

公平性を重視する集落の性格 = 「平準化の論理」

むらの運営の 基本原理

として至る所に貫かれていることを発見！

大毎集落では毎月組長を交代させることで

組長の
労働負担を
軽減

特定の人物に
権力が
固定化される
ことを防ぐ

権力と労働負担の分散化

重要なのは、この工夫が

大毎集落の自治機能の

維持にもつながっている

ということ



住民は
毎年一回
必ず組長を
経験



むらの運営に
無関心では
いられない



住民の
「主体性」
をひきだす

問題は…

「平準化の論理」と

水道組合が

どう結びついているのか？

大毎水道をめぐる動きを見てみると…

1924年（大正13）

開設

：

1978年（昭和53）

旧山北町から簡易水道の水源に
大毎水道の水源を充てたいと

打診があったが**断る**

：

...

1993年（平成5）

魅力ある集落づくり事業

大毎水道の水を供給した
水汲み場「吉祥清水」を整備

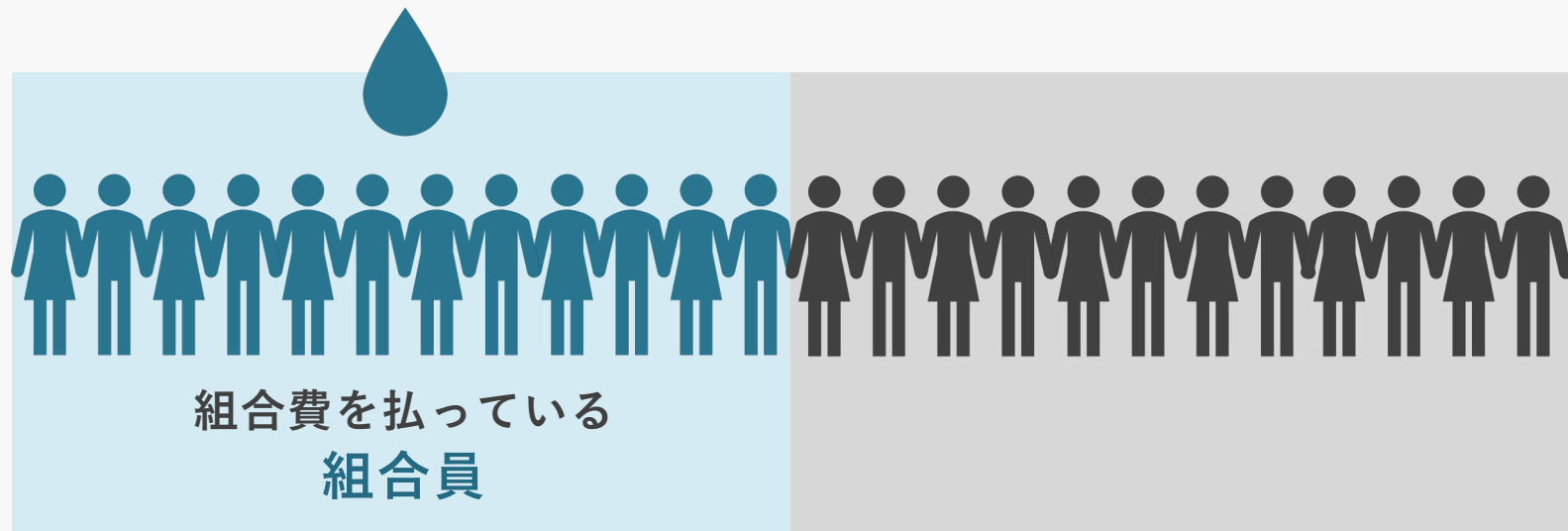
「平成の名水百選」に選出

...

2022年（令和4）

集落の総会で大毎水道の
水源地の所有権を購入することを決議

大毎水道はもともと
組合員だけが利用できる
排除性の働く水道であった

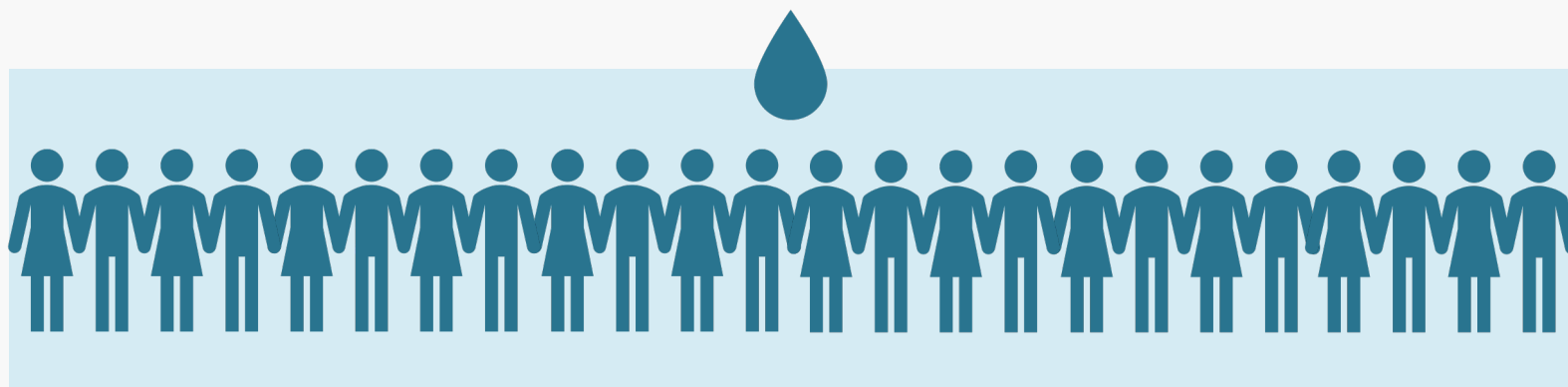


しかし、平成に入ってから…

水汲み場を整備
水を不特定多数に開放

集落として水源地を購入

大毎水道はむら全体の「みんなのもの」と
なる方向へ変化



なぜ大毎水道を
むら全体の「みんなのもの」にする
必要があったのか？

じつは、この動きも

平準化の論理と関係がある！

意外だったのは…

大毎水道以外の水道の水源は
それほど安定しているわけではない
水道組合の規模が小さくなればなるほど不安定

例えば…

町村水道組合

新たな水源



+

農業用水の
水源の一部



安定化を図っている

そのため

「(大毎水道が)羨ましい」という声も多く聞かれた

大毎集落は水が豊かな地域ではあるが
このように…

集落内で水をめぐる格差も
ないわけではない

だからこそ…

大毎水道を「みんなのもの」にすることによって
この格差を是正しようとしている



各家の権利と義務（負担）が
公平になるように調整する

平準化の論理と密接に結びついたもの

まとめ

小規模集落水道の運営には
むらの秩序を支える平準化の論理が貫かれている
これは上水道システムでは決して代替できない

じっさい…

大毎集落は1978年（昭和53）に簡易水道を導入しているが
人びとの利用は極めて限定的
小規模集落水道の利用に強くこだわってきた

そうだとするならば…

小規模集落水道を廃止

上水道システムに移行

**むらの秩序の切り崩しに
直結する可能性がある**

なぜ人びとは小規模集落水道を維持し続けるのか？

水道組合が
むらの秩序の維持と
不可分な存在だから